

## まえがき 「今」にアップデートされる「過去」

今、なぜ「略奪美術品」なのか。

それは、古くて新しい問題であるからにほかならない。数十年前に起きたことが長い時間をかけて「今」へと延々とつながっている。

そしてグローバル化が進んだ美術の世界では、思わぬ「事件」が起きている。高額で購入した美術品が、実は別に「正当な所有者」がいたと訴訟に持ち込まれるケースがある。これには日本人が関与していることもあり、決して対岸の火事ではない。

戦争は容赦なく破壊や略奪のかぎりをつくす。多くの人命が失われる陰で、人間のアイデンティティーを形成する言語、文化、歴史が捻じ曲げられる。それは侵攻する側が相手国の国籍、文化、言語を変えさせ、最終的には従属させることへの前哨戦でもある。

本書では、主に今から数十年前に繰り広げられたナチスによる美術品の略奪が長い歳月をか

けて「現在の問題」となっていることを述べた。もつともそれだけではない。時代の移りかわりとともに変化する歴史解釈は、植民地時代にヨーロッパ諸国が行った「過去の略奪」に対する姿勢にも影響をもたらし、「現在の問題」となって蒸し返されている。

# 目次

まえがき 「今」にアップデートされる「過去」

3

## 序章 ゴッホの「ひまわり」の行方

11

ゴッホの「ひまわり」への返還請求／「ひまわり」の「元所有者」からの訴状／コレクターとしてのメンデルスゾーン家／日本で発見された「名器」

## 第一章 ナチスによる美術品の略奪

25

「芸術の街」ミュンヘンの過去／一〇〇年前にはじまった独裁者の美術品収集／国民文化の均一化／「世界最大の美術館」の建設という野望／モダニズムを「退廃美術」と否定／「退廃美術品」の行方／美術品略奪、組織化される／最大の美術品略奪者／ナチス、ナンバー2のお気に入り画商／「フランスに劣る」というドイツ人の劣等感／「大列車作戦」

## 第二章 老人と美術コレクション

ヒトラーの地下壕で何が起きたのか／「空白の時間」に再度略奪される／  
ほかにもあった「空白の時間」の二次略奪／「モニュメンツ・メン」／  
元の仕事へ戻っていったナチ画商たち／  
ローゼの死後、行方不明だった絵が現れる／老人と美術コレクション／  
父親はナチスのために美術品を売った画商だった

## 第三章 美術品の「来歴」

「美術品の山」の波紋／スイスとナチス略奪美術品／  
松方コレクションの絵も「発見」される／  
日本でもみつかった「ナチス略奪美術品」の返還／「美術品返還すごろく」／  
減り続ける当事者たち／個人の住宅からまた発見される

## 第四章 ドイツ美術界の「過去問題」

美術コレクションの「過去」／美術展示会、ドクメンタの「過去問題」／ナチス・アーティストたちのその後／「ドイツのミケランジェロ」の戦後／エミール・ノルデを追ってきた「過去」／ナチスを支持していたノルデ／バゼリッツ対ツイーグラ、二二世紀的意味／「ヒトラーの馬たち」、その後

## 第五章 終わりになき美術品の返還論争

一二年かかった「ワリーの肖像」の返還訴訟／ネットの普及で返還交渉が盛んになる／「最後の囚われもの」である美術品／ルノワールの「可愛いイレーヌ」はなぜ問題なのか／武器商人と美術コレクション／ナチスの略奪者との関係／「今」にアップデートされる美術品の過去／美術品の「裏面」が語ること／もう一人のグルリット

## 第六章 略奪美術品の行方

植民地時代にさかのぼる美術品略奪／美術館は返還に消極的／

「ネフェルティティ」は返還するべきか／

二一世紀の「美の消費者」は観光客たち？／美術館の大衆化／

中国は台湾を目指すのか／美術品は誰のものなのか

## 終章 繰り返される「文化戦争」

ソ連がドイツから「持ち帰った」美術品／複製で再現される芸術／

ウクライナ侵攻で「文化戦争」再び

## あとがき

## 主要参考文献